令和６年度　金沢市森づくり市民会議（第１回）

日　　時：令和６年７月 26 日（金）　14 時 00 分～15 時 15 分
会　　場：金沢市役所第二本庁舎２階　２２０１会議室
出席委員：大河原委員、小杉委員、澤田委員、西多委員、前委員、
　　増江委員、水越委員、柳井委員、横山委員
事 務 局：紙谷農林水産局長、中西森林再生課長　ほか４名

【次第】
１　開　会
２　挨　拶
３　会長あいさつ
４　議　題
　（１）令和５年度森林再生施策の実施報告及び
　　令和６年度の取り組みについて
　（２）森と市民をつなぐ拠点施設整備基本計画について
５　閉　会

【議事録】
事務局より説明

（１）令和５年度森林再生施策の実施報告及び 令和６年度の取り組みについて

（会長）
　令和５年度森林再生施策の実施報告及び令和６年度の取り組みについて意見はないか。

（委員）
　若竹伐採の具体的な内容及び竹林伐採の要望の状況を教えてほしい。
　また、市営造林の主伐について、現在、順次説明会を開催していると聞いたが、参加者の想いがどのようなものか、分かれば教えてほしい。

（事務局）
　竹は繁殖力が強いので、放置竹林を伐採しても翌年また生えてくる。若竹伐採

とは、竹林伐採の翌年から２年間、再び生えてきた竹を伐採する行為で、竹林整備は３年間かけて行っている。伐採の要望は増加の傾向にある。
　市営造林の説明会だが、自己の森林の区分や売払い時期等に関する質問などが多いように感じている。

（委員）
　市営造林の伐採後の再造林は進めているのか。

（事務局）
　主伐後の再造林については、小花粉スギや広葉樹により 100 パーセントを目指していきたい。

（委員）
　主伐後の景観について、何か配慮は考えているのか。

（事務局）
　景観や自然災害、水源涵養、地球温暖化等への配慮を踏まえて取り組んでいきたい。

（委員長）
　クマ対策のヤブ刈は地元への補助金が出ているが、ヤブ刈を継続してく中で地元の理解をどう進めていこうと考えているか。

（事務局）
　現時点で具体的な取組を行っているわけではないが、ヤブ刈に対する市の支援を契機として、地元住民が地域で取り組む課題という認識を少しずつ持っていっていただければと考えている。

（委員）
　令和５年度から令和６年度にかけて、金沢産材のスギ材使用量は減少している感覚がある。金沢市内で木造住宅は 1,000 棟程度建てられていると思うので、まだまだ金沢産材の使用量は少ないと思っている。
　補助金額も、建築物価が高騰する中、制度開始から変わっていないので、金額の見直しや、補助対象の拡大などの考えはないか。

（事務局）
　金額改定等については、予算の都合もあるが、物価スライドの影響もあるので、検討できないだろうかという思いである。
　金沢産材使用量の拡大については、今年度から金沢産材商品化トライアル事業を開始しており、金沢産材を使用し製作する住宅用の下地材が、うまく流通にのせられないか検討している。

事務局より説明

森と市民をつなぐ拠点施設整備基本計画について

（委員長）
　森と市民をつなぐ拠点施設整備基本計画について何か意見や質問はないか。

（委員）
　子どもに継続的に来てもらうためには、大人も楽しめる施設にする必要がある。また、子どももどの年代を対象にするか、未就学児と小学生では関心が異なるので、ターゲットを絞る必要があると思う。
　幼児は、森が楽しいと感じるところまで、自ら森を何とかしようと考えられるのは、小学生くらいからではないかと思う。

（委員）
　この施設のコンセプトデザインは誰が行っているのか。
　建物をどう使うかではなく、その建物がその地域にとってどういう価値があるのかとういことを明確にしないと人は集まらないので、施設のコンセプトデザインと野外活動フィールドを含めたグランドデザインは、時間をかけて行う必要があると思う。
　コンセプトが決まれば、そこから子ども向け、あるいは少子化もあるので大人、市民とどうつなぐかなど、ターゲットが決まってくる。
　特に森や食に興味のある世代、自然とどう共生するかに関心のある市民が最近増えているので、まずはそこにターゲットを絞り、次に興味のない人をどう巻き込むかという、ニーズの変化に合わせた２，３年ベースのコンセプトデザインをつくり、意見を聴取するのであれば、どのベースの人を巻き込むための意見を求めるのか、これまでに行ってきた具体的な取り組み事例などを示した方が、委員としては意見が出しやすい。
　森と市民をつなぐ拠点施設から、もう一歩踏み込んだリード文のようなもの

があると良いと思う。
　そこが決まると、森と市民をつなぐ中継拠点としての機能を働かせるためのディレクターやコーディネーターの選定に繋がっていくと思う。
　委員としての意見は、どこまで話してよいのか悩む部分もあるので、本当は、もっと踏み込んだ議論が行える場があると良いのかもしれない。

（委員）
　この施設は、市の職員が常駐する施設か、イベント時にスポット的に開放する施設か。

（事務局）
　公民館や児童クラブとは別に、職員が常駐する施設を想定している。

（委員）
　事務局は、金沢林業大学校とは独立した職員を配置するのか。

（事務局）
　予算を伴うものであり断言はできないが、独立した職員の配置を想定しているところである。

（委員）
　林間広場で使えるハンモック等の道具を準備する等、一般の方々が野外活動フィールドを利用しやすいアイデアを盛り込んでほしい。

（委員）
　石川県の木造建築施設である木場潟東園地は、キッチンカーが来ており、木育施設や子どもの遊び場なども整備され、大勢の人で賑わっている。
　金沢市内には木造建築に敏感な設計士もいるので、旧東浅川小学校の改修ではなく、木造２階建ての施設に建て替えてはどうか。

（事務局）
　施設の建て替えは考えていないが、木育ルームの部分で、単なる屋内遊戯施設とは違った観点からアプローチして独自性を出せないかと考えている。

（委員）
　この校舎は耐震改修工事が完了しているのか、また、屋内運動場は防災拠点施

設も想定しているのか。

（事務局）
　耐震改修がなされていることから、今回の改修後も同様に、施設全体が防災拠点施設となる予定である。

（委員）
　石川県木材産業振興協会は、木の価値をどうやって上げるかを考えているが、経験談として、木材の良さをいろんな人に感じてもらうために、木のベーカリーをつくった。木の中で食べるものはおいしく感じられること、また、足の裏から木のぬくもりを感じてもらうことを意識し、あえて使用した板材はウレタン塗装をせずに仕上げた。
　ベビーマッサージやパンづくり等のワークショップも行い、子ども大人も楽しめるサービスを提供することで大勢のお客さまに来ていただいている。
　同施設でも同様のサービスを提供すれば、遠くてもわざわざ足を運ぶ人もいるのではないかと思う。
　また、今後は住宅着工数が増えていく時代ではなくなっていくので、住宅以外の空間で木の良さを感じてもらえる場所を沢山提供できるように、行政には補助をしてもらいたい。
　木の良さを五感で感じられる空間が増えて、木の価値が上がれば、おのずと森の価値も上がると思う。
　森と市民をつなぐ拠点施設でも内装材にウレタン塗装はせず、木の香り、木のぬくもり、視覚、聴覚から木のやさしさが感じられるような空間にしてもらえれば、また行きたくなると思ってもらえると思う。

（委員）
　市民には、森を育てることが、里を育て、海を育てることにつながること、森づくりは山に住んでいる人、森に興味のある人だけの問題ではないことを子どもから大人まで教えていく必要があると思う。
　また、この施設には、食べるところがないので、せめてコーヒーを飲める程度のところが欲しいし、ショップもないので、思いがけないものが木で出来ているなど、目玉となるような製品があると、ドライブがてら人が来てくれると思う。
　最後に、能登半島地震を踏まえ、災害に強い森づくりという観点から、防災的な取り組みも是非アピールして欲しい。

（委員）
　野外活動フィールドにはキャンプ場もあるが、近年キャンプがブームなので、キャンプをテーマにするのも良いもではないか。
　また、食とお土産ばかりに偏ると道の駅と差別化できなくなるので、触れることのできる展示物などを設えることも重要だと思う。

（委員）
　複数の野外活動フィールドがあるので、全体ではなくその一角でも、森にテーマ性をもたせると足を運びやすくなると思う。
　海外の事例として紹介すると、「食べられる森」ということで、その森にある植物の採種の仕方を紹介したり、「香る森」ということで、香りの強い木や擦ると香りを放つ木など、匂いから関心を持たせたり、「カメレオンの森」ということで、季節によって色や姿を変える森を紹介するなど、単なる遊びではなく学びも含めて体験できる、家族で行けるような施設になると良いと思う。
　エントランスの設えには、遊んだり、くぐったり、触ることで変化が発生するようなインタラクティブ性をもたせるのが主流となっている。

（委員長）
　興味深い意見も複数あったので、今日の意見を参考により良い施設整備に綱出てほしい。